

大学院 教育評価アンケート結果

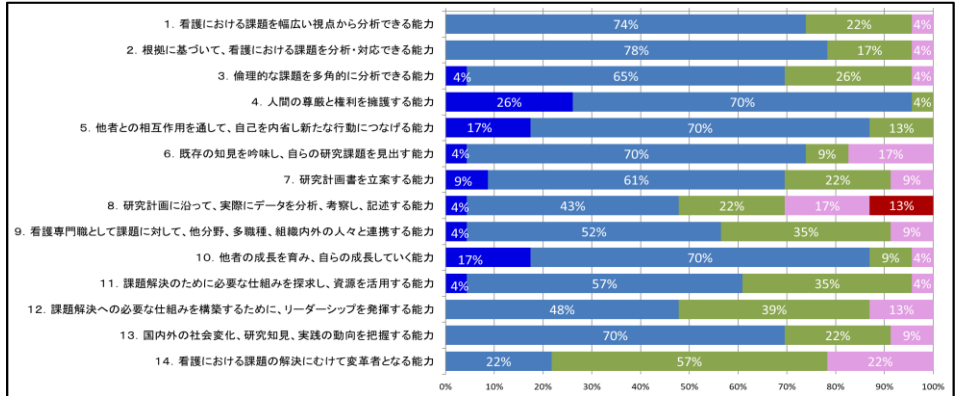
2018年度 修士課程【国際保健助産学専攻】

2018年度の修士課程(国際保健助産学専攻)の在學生(1~2年生)を対象とした教育評価アンケートの調査結果についてご報告いたします。

■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そうは思わない ■ 全くそうは思わない ■ 無回答

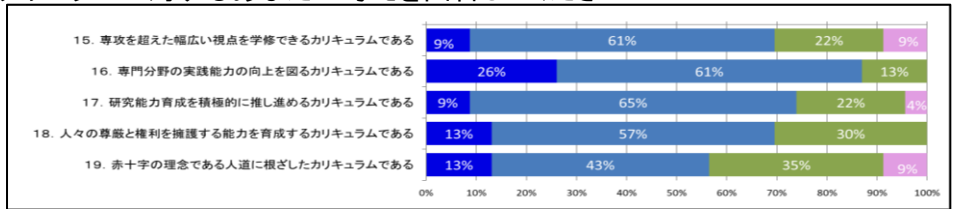
I. 現時点であなたが以下の項目を身につけているかについて回答してください

修士課程(国際保健助産学専攻)において現時点で身につけている能力として、在學生の8割以上が「強く思う」「そう思う」と回答した項目は、**14項目のうち3項目**でした。
 そのうち、「人間の尊厳と権利を擁護する能力」(96%)は、「DP2. 人々の尊厳と、権利を擁護するために、倫理的課題を多角的に分析し、対応する能力」に対応しています。また、「他者との相互作用を通じて、自己を内省し新たな行動につなげる能力」(87%)は、「DP3. 他者との相互作用を通じて、自己を内省し、新たな行動につなげる能力」に対応しています。さらに、「他者の成長を育み、自らの成長していく能力」(87%)は、「DP8. 変動する社会に対応し、専門職として自己成長し、専門領域の発展に寄与する能力」に対応しています。



II. 本学大学院(修士課程)のカリキュラムに対するあなたの考えを回答してください

修士課程(国際保健助産学専攻)のカリキュラムの受け止めについて、7割以上の在學生が「強く思う」「そう思う」と肯定的に評価した項目は、**5項目のうち4項目**でした。
 専門分野の実践能力の向上を図り、研究能力育成を積極的に推し進め、専攻を超えた幅広い視点を学修でき、人々の尊厳と権利を擁護する能力を育成することができるカリキュラムであると評価されています。



III. 大学院における以下の内容に関する満足度を回答してください

本学大学院への満足度として、修士課程(国際保健助産学専攻)の在學生の8割以上が「強く思う」「そう思う」と肯定的に評価した項目は、**26項目のうち5項目**でした。
 主体的に学べる授業や視野を広げて新しい発見をする授業が多いことが評価されています。また、教育や研究、実践に対して熱意を持った教員、人間的な魅力がある尊敬できる教員、学問分野の専門家として優れた教員が多いことが評価されています。

